

## 外国語学習はどこへ行くのか？

法学部 中尾 浩

昨年末に風邪をひいて、近所の医者に行ったときに面白い光景に出会いました。待合室には私の他に、高齢のご夫婦、まだ幼い女の子とその母親と祖母とおぼしき三人連れが待っていました。そこにちょうど私と同じくらいの男性がやってきました。その男性は診察券を受付に出すと椅子に腰掛け、横にいた女の子の家族を見ていました。するとスマホを取り出して、そこに中国語で何かを話すと、女の子の家族に向かって差し出します。すると「お子さんは何歳ですか」という合成音声流れてきました。女の子の母親はちょっとびっくりしたようでしたが「2歳です」と答えると、男性のスマホから中国語が流れてきました。男性はうなずいて再度、中国語で何かを吹き込むと「可愛いですね」という音声流れてきてニコリ笑っていました。女の子のご家族もびっくりしながらも嬉しそうでした。

すでにおわかりの人もいるかも知れませんが、男性が使ったのは音声自動翻訳装置で、日本ではポケトークが有名ですが、多くのメーカーから同等の機能を持った製品が発売されていますし、スマホバージョンもあります。

あるいは最近、ニュースでもよく聞かれる生成AI（個人的には「誤用」を避けるためにも対話型AIと呼んだほうが良いのではないかと最近は思っています）も強力な翻訳機能を持っています。Google翻訳の代わりにChatGPTを使っている人もいるかもしれません。

こんなに便利な世の中になったのに、苦勞して外国語を学ぶ意味はあるのでしょうか？ いくつか理由は考えられると思います。たとえば確かにポケトークのような機器を用いてコミュニケーションを取ることも不可能ではありません。

ん。今後はさらにそのような場面が増えるでしょうし、習得する時間はないが一時的に必要な場合などには便利でしょう。しかし日常的にそのような機器に頼ってコミュニケーションを取ることは想像しただけで不自然です。人間が人間とコミュニケーションを取る場合はやはり自分自身で習得することが一番のように思えます。

あるいはそのような翻訳ツールはほとんどの場合、電子機器なので、電気がなければただの箱です。いつでもどこでもコミュニケーションが取れるためには、人間が習得するのが一番便利です。その他にもいくつか理由は考えられるでしょう。

しかし、AIとの関係で言えば、もっと重要なことがあります。それは「AIの出力結果を判断するのは人間である」、ということです。AIの出力結果をそのまま鵜呑みにすることは、AIに使われているのと同じです。AIの出力結果を判断する能力こそが人間に問われています。ある言語を日本語に翻訳させた場合、その訳文で良いのか、真意は伝わるか、失礼な表現になっていないか、もっとわかりやすい表現はないか、などを考える力が人間に求められています。AIに使われないために、我々はAIを超える（言語）能力を磨く努力を惜しんではならないのです。

もちろん、全てにおいてAIを超える能力などは不可能です。たとえば記憶容量で言えばコンピュータやネットワークはとっくの昔に人間を凌駕しています。それに立ち向かうなどナンセンスです。しかし、判断力、想像力、企画力などはAI任せではいけません。人間の想像を超えた判断をAIは出力するかもしれません。しかし、その判断が妥当かどうか、その判断を採用するかどうかを判断するのはあくまで人間なのです。それこそがAIと人間の協働です。

AIをパートナーとして、もっと優れた成果を一緒に上げるために、皆さんは今まで以上に外国語の勉強をしてみませんか？